

急変時の介護医学

急変を見抜くのは、利用者の生活を創っている介護職の力量にかかっています。
 また、病状の安定のほとんどは、医師・看護師以上に介護職が握っています。
 さらに、ケアの質を上げると診断が早まります。本セミナーでは、
 病状管理の方程式をマスターし、急変時の見抜き方と考え方を学びます。

盛岡

2018年

日時：9月2日(日) 10:30~16:00

会場：岩手県高校教育会館
 (2階小・中会議室)

(岩手県盛岡市志家町 11-13)
 ☆JR「盛岡」駅から都心循環バスで
 「バスセンター」下車徒歩 15分

受講料：6,000円

きよふじ だいすけ
講師：清藤大輔

医師／ういずクリニック新横浜・院長



1994年、熊本大学医学部卒。
 仙台市での在宅ホスピス勤務
 医を経て、2003年より11年間、
 老健施設の施設医を務める。
 2014年より介護老人保健施設・
 志木瑞穂の里副施設長、2015
 年より施設長。2018年3月同施
 設退任。

<プログラム>

10:30~11:30 ◎急変時とは

異常の早期発見と早期対応／慢性疾患の急性増悪／急変のリスク因子／事故防止の3つのレベル／急変時の介護ならではの役割／急変時の医師・看護師への報告の仕方

11:45~12:45 ◎急変時のサインと緊急性の高い症状

急な体調変化／急なADL低下／突然の激しい痛み／2回以上続く嘔吐／3食以上食べない／便の色の異常／バイタルサインのパニック値／時間単位での症状の変化／意識レベルの低下／体の一部の異常な動き／薬が原因の新規症状／けがと骨折

(昼食・休憩)

13:45~14:45 ◎急変時の症状別対応

高熱(38度以上)／誤嚥・窒息／呼吸困難／意識障害とせん妄／けいれん／てんかん／意識消失／激しい頭痛・胸痛・腹痛／吐血・下血／骨折／火傷／鼻血／低血糖発作

15:00~16:00 ◎2つ以上の症状の危険な組み合わせ

- ①意識レベルの低下+呼吸器症状、むくみ・息切れ、体の動きの異常、冷や汗、血圧低下
- ②頭痛+嘔吐、38度以上の発熱+脈90以上、入浴後+めまい、多量の排便+意識障害

主催

なるほどケア塾

〒189-0011 東京都東村山市恩多町 3-39-13-101 ㈲円窓社内
 お問い合わせ ☎042-306-3771

*受講票はお送りしません。満員でお断りする場合のみ一週間以内にご連絡をさし上げます。

*受講料は当日会場で承ります。

Fax : 042-306-3772

お申し込みは今すぐこちらへ Fax

<参加者名>

*施設の場合は施設名もご記入ください。

<住所>〒

(自宅・職場)

<TEL>

<FAX>

9/2(日) 盛岡
 <参加人数>

名